

新しいサービス産業のひとつとしてソフトウェア・サービス業全般を指す IT-BPO 産業がインドで隆盛している。インドの IT 業界団体 NASSCOM によれば、2011 年には IT-BPO 輸出によってインド GDP の約 7.1%にあたる約 590 億米ドルが稼ぎ出された。IT-BPO 産業はインド国内向けの需要も伸びており、2012 年には輸出と国内の出荷額を合わせると 1 千億米ドルを超えると予測されている。

インドでは、イギリス東インド会社後期の 1854 年に始まった工業化が 1991 年までに大きく飛躍することがないまま、1991 年以降に第三次産業に属する IT-BPO 産業が開花した。先進国では IT-BPO (ソフトウェア) 産業はハードウェア産業など製造業を経た後にあると考えられている。製造業のブレイクなしに IT-BPO 産業が大きく成長したインドの特殊性を考える場合、現在の経済現象をみているだけではその理由を明らかにすることができない。

本論文の目的は、インドで製造業が隆盛しないまま IT-BPO 産業が隆盛した経済的理由をその歴史から探ることである。この目的を達するために、1991 年の経済改革以前と以後に分けてインド経済を振り返り、インド固有の特殊な状況をみていく。経済改革以前においては、インド経済の主役となったパルスィの出自および東インド会社による植民地支配を振り返る。経済改革以後は、混合経済政策を振り返り、頭脳流出からアメリカでの IT-BPO 産業技術の習得、その後、オフショア BPO が生まれ、アメリカン・グローバリゼーションが進展する中で母国インドに帰る頭脳循環が現れ、インドで IT-BPO 産業が隆盛している状況をみていく。この中で、経済改革以後に即戦力の IT 専門技術者を輩出するために多くの大学と IT-BPO 産業に属する企業が産学共同で対策を講じている事例を示す。

最後に、本論文の目的を達するための結論として、①インドの歴史によって育まれた「気遣い」と「英語力」、②混合経済により工業が発展せずに頭脳流出が発生、③アメリカン・グローバリゼーションの流れの中で①と②が相互作用を起こして IT-BPO 産業がブレイクした、の三点を指摘し、今後の課題を示す。